

第1回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時: 令和4年8月29日 場所: 商工会議所4階会議室

出席者: ○委員: 足利宗洋、雨宮留美子、小山憲一、森雅志、菅野潔、岡本貴之、吉田明昇、小山裕隆、高橋夏帆、齋藤和代、鈴木歩、加藤美帆、村上浩之、原田雄介、加藤正禎、柴田静佳、谷村明信、小野寺紀子、廣野一誠、高橋正樹、以上20名

○オブザーバー: 市鈴木企画部長、赤坂室長、菅原人口減少対策統括官、斉藤課長補佐
雇用創造協議会、千葉市議会対策委員長

○会議所: 菅原会頭、熊谷事務局長、熊谷次長、小野寺総務部長、佐藤総務課長、佐藤、熊谷

1. 開会 16:05

2. 会頭、委員長挨拶 それぞれの思い、委員会に期待する内容が述べられた

会頭のポイント: ①減少をどう緩やかに出来るか ②減少する中でどう生きるか

3. 議事

(1) 会頭ミッション、委員会の目的

・委員の自己紹介とミッションの質疑、委員会への決意・・・全員理解、了承

(2) 副委員長選任 小野寺紀子委員 廣野一誠委員・・・委員長提案、承認

(3) 国内及び市域の人口減少に関する現状・・・市企画部長及び赤坂室長より資料に沿って説明

(4) 行政による各種対策・・・市赤坂室長より資料に沿って説明

<途中事後質疑>

・自然動態、社会動態等のデータには、外国人就労者は入っているのか ⇒入っている

・子育ての大きな障害は進学にかかる教育費と言う実感であるが、その様なデータはあるか？

⇒幼少からの全体的な教育費という捉え方はしているが高校卒業後の教育費と言う捉え方はしていない。

・様々な施策が一覧になった物が無いか？(就労者の対象者、或いは採用する相手に配布、PRをしたい。パンフになっていると尚良い) ⇒無い。検討してみたい。

・出産を機に辞めた人の割合は解るか？

⇒アンケートの回答から推測で 100/260。直接のデータなし。

・少子化対策の全体的な予算は合計概算でいくらか？ 把握してない。

⇒全て生まれた子供に使うとどうなるか、極端な計算も必要かもしれない

・こはらぎ荘が満杯とは良いことだが、何社で何人雇用が生まれ、そのうち何人が移住者で、家族も入れてどれくらいの人口増のインパクトがあったのか？ ⇒把握していない

※もう少しやってることに対しての様々な角度での評価、分析が必要では？

・Uターンに対する直接的な政策は何か？ ⇒条件は厳しいが国がやってる移住支援金。

※やっていることもイマイチ知られてないし、U ターンが大切という分析が出ている割には政策が打ててないのでは？

(5) 今後の進め方・・・まずは市の政策の中で、もっと掘り下げたい話はあるか？

・目先の政策の事も大事なのだと思うが、我々が年老いた時にどう生きるかのまちづくりに向かって何を成すべきか話し合いたい

・会議所は育休の取得企業数や給与水準など雇用や移住に有効なデータを持っているのか？

⇒データは無い ⇒今後の政策検討のベース、或いは企業への問題意識の啓発にアンケート調査を実施すべき ⇒会議所加藤委員(専務)事務局と原案作り(次回提案)

・移住就労者に対する住みよさのアンケート調査など行った実績はあるか？

⇒ない ⇒今後の検討の裏付け、ベースデータの為、アンケート実施が必要

⇒雇用創造協議会で原案作り(次回提案)

・先進地、及びその事例も各委員で先ず web で良いので調査を心がけよう

⇒明石市の取り組み(雨宮委員&事務局)、東根市の取り組み(事務局)で次回紹介

(6) その他

・9月6日 枝廣淳子氏産業連関、好循環のまちづくりの講演案内

・本日の振り返りシートを配布するので、本日言えなかった意見、今後の進め方等何でも書いて欲しい

・次回は9月28日16時から会議所。市の政策のうち経済界に関係の深い政策を鈴木企画部長と協議の上、準備したい。また振り返りシートを見た上で準備を加えたい。

・3回目以降は月1回ペース、次回まで3月までの候補日を提示して皆さんの出席予定が一番多い日に取り敢えず年間予定を組んで委員会を開催して行きたいので宜しくお願いしたい。

4. 閉会 18:10

第2回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和4年9月28日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、菅野潔、森雅志、足利宗洋、村上浩之、雨宮留美子、

岡本貴之、小山裕隆、齋藤和代、鈴木歩、加藤美帆、加藤正禎 以上13名

○オブザーバー:市産業戦略課 平田課長、斉藤課長補佐、小野寺係長

赤坂けせんぬま創生戦略室長

菅原人口減少対策統括官

雇用創造協議会 畠山、白幡

○会議所:菅原会頭、熊谷事務局長、熊谷局次長、小野寺総務部長、佐藤総務課長、佐藤、熊谷

1. 開会 16:05

○会頭挨拶…これまでの枠にとらわれず遠慮なく意見を出してほしい。3月までに方向性を固めたい。

○委員長挨拶…振り返りシートで熱のこもった意見が多数あり感謝している。人口対策だけではなく、人材開発も行っていきたい。今後、必要があれば新メンバーの補強も検討したい。

2. 議事

(1) 前回の振り返りシートについて:委員長から説明

- ・分野に分かれて検討してはどうか→部会制で検討を進める
- ・会議へのリモート参加を可能にしてほしい→可能であれば次回から実施
- ・紙資料は好ましくない→紙資料の必要・不必要について後日確認する
- ・市の産業界に対する要望を聞いてはどうか→菅原市長に要望を伺っている。「経済団体にお願いしたいことがあり、後日連絡する」との返信があり、次回の委員会で報告する。

・北海道下川町の事例については、次回の委員会で視察報告をしてもらう。

●委員長:振り返りシートは毎回実施することはできないが、必要に応じて行う。今後の提言・要望先などは気仙沼市、会議所などの垣根関係なく意見を出してほしい。

※ほか、資料前回振り返りシート一覧を参照説明

(2) 前回の会議から

■兵庫県明石市の事例調査結果について(雨宮委員):第2子以降の保育料完全無料化、おむつ定期便などのほか、高齢者・障害者支援策として、車いす用のスロープなど明石市が全て負担して設置している。若者も高齢者も「住み続けたい」と思うまちづくりを行っていると感じた。

(意見)・気仙沼市は年間約200人弱しか子供が生まれないが、明石市は出生と死亡がそんなに変わらないのはなぜなのか。

・電話でヒアリングをしてもいいのでは。

- ・子育て世帯に対する手当が“所得制限なし”という点が良い。しかし、財源は何なのか、どこからなのかが気になる。

●明石市の政策については、会議所は関与しておらず、全て市が独自に行っているとのこと。

※引き続き、行政連携部会にて調整する。

■山形県東根市の事例調査結果について(事務局)：

「子育てするなら東根市」をコンセプトに、平成17年に開設した子育て支援のシンボリック的存在さくらんぼタントクルセンターを中心にハードソフトの両面から手厚い子育て支援、人づくり施策に注力。子育て支援、ファミリー支援、けやきホール、公益文化施設まなびテラス、中高一貫教育、農工一体教育等が総合的に効果を生んでいるものと推察される。昭和 52 年から人口が増加し続けており、出生率は減少傾向ではあるものの、全国や県の平均よりは高い数値となっている。

(意見)・以前視察に行ったことがあるが、元気なまちだった。

- ・日向商工会議所では、商工会議所が中心となり、子供を市外へ出さない取り組みを実施していると聞いた。
- ・子育てで何に力を入れているか、掘り下げて調査することが今後必要だと思われる。
- ・振り返りシートにあったが、気軽に参加出来る「婚活交流」などが必要なのでは。

■こはらぎ荘の詳細について(市 小野寺係長)：

旧小原木中学校の2階空きスペース(1階は公民館)を改修し、サテライトオフィス等の整備を行った。令和2年度には宮城県の補助金を活用し、オフィスエリアを増床。現在は8事業所が入居しており、若い女性の働き場所となっている。賃金形態は都市部並みとなっており、育児による時短勤務などにも柔軟に対応している。

(意見)・入居の決め手は初期費用の安さ。メリット、デメリットはもちろんあるが、働きやすい。

入居事業所同士での交流もあり、一緒に仕事をしている。

- ・近くに店がなく不便を感じる部分もある、と言う入居者からの感想に対し→給食センターが併設されていることを利用し、こはらぎ荘内及び、近隣の市民、高齢者、事業所に飲食の提供を行えば、周辺環境は良くなる。またカーシェアリングを設置するなどすれば利便性は向上するのではないか。→(市)今後検討したい
- ・こはらぎ荘のような施設を増やす予定はあるのか→閉校となった施設や、使われてない施設が何か所か市内にあるので、唐桑ではなく、別のエリアに同じような施設を設けたいと思っている(市)
- ・こはらぎ荘のみならず旧月立小学校など、空きスペースが活発に活用され始めている施設は倉庫利用を止めて空き教室を増やすべきではないか。→(市)今後検討したい

- ・市はこうした物件の募集 PR は常に行うべき。また広報や新聞だけではなく SNS など活用し、不動産情報であるので常に取り組みを知ってもらうことが必要なのではないか。国内だけではなく、海外にも。

■圏域企業、移住者の実態について

基本的に以下の賃金等の情報以外、最近の詳細なデータが無いため、後に示す圏域企業アンケートを会議所全会員に実施することにしたい。

□求人平均賃金について(加藤専務)：

宮城労働局のデータから抽出。気仙沼市の平均賃金は全体的に低いが、宮城県と比較すると2万円低く、仙台市と比較すると3万円低い。

H25の最低賃金は685円。R3年10月に853円に上昇。685円から1.24倍の上昇率。R4年10月には883円に増額される。1月平均の賃金は仙台・宮城労働局管内は1.14倍、気仙沼管内は1.19倍。

□圏域企業へのヒヤリングシート事務局案について：

企業活動における人口減少対策に繋がる分野の企業運営の実態をつかむと同時に、今後に向けて色々なアイデアが欲しいため実施する。会議所の全会員に向けて郵送をすることを前提に、調査項目案を資料に沿って説明。

(意見)・ペーパーレスにするべき。紙媒体だと集計も大変なのと、DXを進める意味でもそうすべきでは？

→使えない会員も想定されるため、QRコード入りで案内を出し、紙媒体とネット回答の両方で回答出来るようにする。

- ・設問によっては「この項目は若い世代の方の意見を聞いて記入して欲しい」或いは「該当が無い場合、空欄のままでも可」などの注書きを入れる(該当しない項目にも無理に記入しなければならない状況だと、アンケート自体に回答しない会員が多くなる恐れがある)。
- ・アンケートのスケジュールとして、10月郵送、11月の委員会で中間集計報告をする。

□UIJ 移住者アンケート案について：

- ・気仙沼市雇用創造協議会作成の原案資料に沿って説明

(意見)・雇用創造協議会事務局で把握している対象者(移住者)は？→約40名。

同様のUIJ関係団体にも協力をお願いし、かつ直接UIJターンしている市民も多いため会員企業に社内の対象者に配布の協力依頼をして分母を増やす努力をする。ただし、人口減少アンケートと混同するため、社員数が一定以上の会員に限定するなどの工夫必要。

(3) 今後の進め方について

- ・下記3つの検討部会を編成：各部会月に1~2回程度開催し、まとめた結果を人口減少対策委員会の全体会で報告する。

- ① 行政連携分野検討部会(部会長:高橋委員長)7名
- ② 経済活動分野検討部会(部会長:廣野一誠副委員長)9名
- ③ 20年後のまちづくり分野検討部会(部会長:小野寺紀子副委員長)7名

※今後の各部会の日程は部会長と委員の間で今後決めて進める。

・振り返りシートの「訪問してみたいまち」の項目は列記してある様な意見が出ているが、今後検討しながら進めたい。

→会頭:今後の委員会講師招聘については、場合によっては、全国レベルでの人口減少問題についてのセミナーも検討したい。また、地域での良い事例も探していきたい。

・今後の日程について

- 令和4年10月28日(金) 午前10時～
- 令和4年11月18日(金) 午後4時～
- 令和4年12月15日(木) 午後4時～
- 令和5年1月23日(月) 午後4時～
- 令和5年2月22日(水) 又は24日(金) 午後4時～
- 令和5年3月17日(金) 午後4時～

(4) その他

- ・紙資料の有無、メールアドレス共有の了承について委員に連絡を行う。
- ・どうしても出席出来ず、リモートでの出席については Google Meet の使用で了承。
- ・次回、北海道下川町視察の報告も行いたい。

3. 会頭閉会挨拶:賃上げが進むよう日商も取り組みを始めているが、賃上げを行うには順序がある。まずは企業の所得を増すために、円滑な価格転嫁が出来るように取り組み、値上げを行う。それらを踏まえてからの「賃上げ」になるため時間がかかるが、経済団体として何が出来るのかを検討していきたい。

4. 18:05 閉会

第3回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和4年10月28日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、谷村明信、菅野潔、森雅志、村上浩之、雨宮留美子、小山憲一、原田雄介、岡本貴之、柴田静佳、小山裕隆、加藤美帆、加藤正禎 以上15名

○オブザーバー:市産業戦略課 齋藤課長補佐
雇用創造協議会 畠山、白幡

○会議所:菅原会頭、熊谷局次長、佐藤総務課長、佐藤係長、熊谷

1. 開会 10:05

○委員長挨拶…本日第3回目。前回承認頂いた部会を開催した部会もまだ開催していない部会もあると思うが今後の委員会はこの3分野の部会での検討内容を発表し、お互いにこの場で意見を出し合い全部の分野を全員が参加して検討するという流れにしていく。よってお互いこの場では遠慮せずに意見を出し合って欲しい。

気仙沼市長へ以前提出した人口減少対策に関して市が我々民間企業に求めるものと言う事で回答が来たので要約したものを後程説明したい。

今後様々に課題が出て来ると思うが、次の世代へのバトンタッチをどのように行うのが大切な所。本日も活発な議論をお願いしたい。

2. 議事

(1)各種アンケートの進捗について

◆会議所会員への雇用と人口減少対策に関するアンケート:事務局から説明。

アンケートの発送については、メールの登録をいただいている会員には本日(10/28)午後に送付し、来週早々に全会員に郵送する。QRコードとURLを記載。回答率を上げるため、些少の気仙沼商品券も進呈予定。

(意見)・ハローワークに見てもらった。このようなデータが欲しかったとのこと。

・細かすぎると回答率が下がるため内容を精査し、なるべく選択式で回答出来る内容にした。

(決議)・これは全会員に会議後速やかに発信する。

◆移住者アンケート:雇用創造協議会から説明。

答えづらい設問もあるが、給与面や生活部分、仕事に対する不安などについての設問を設けている。内容について確認をお願いしたい。

(意見)・複数回答が可能な設問部分には「複数回答可」の文言をしっかりと入れるべき。

・共働き、片働きでは分析に違いが出てくるため、アンケートの設問として入れた方がよい。

・給与を聞くと全て給与が低いからと言うことに集約されてしまうので聞く必要はなのでは？賃金の低さを承知の上で移住して来ている人も多いと思うので。→賃金の設問を取って避けるのはかえって不自然に思われる

ので聞く必要は当然あると思うし、その後の設問を見ても、そこだけに固執する様な中身になっていないので、提案通りの設問にしたい(高橋委員長)

- ・若い世代は、先のことを深く考えずに移住をして来るが、年齢を重ねて“今後”を考えたとき、不安に思う人が多いため、都会へ戻る人が多い。“この町で今後を過ごすには。未来が明るくなるには”のような設問を設けたらよいのではないか。→問 22 のあとに「今後の不安」の設問を追加する。
- ・「気仙沼に移住しての満足度」「人生の充実度」について知りたい。→問 13 の「仕事の満足度」の設問の前に、気仙沼全体に関しての満足度を聞き、その後に設問 20 を入れ、最初に気仙沼全体の満足度の属性を判別してから、その後の設問に答えてもらい、事後の分析がし易いようにする。
- ・問 5 の「その他」を削除。
- ・回答の年齢は 40 歳台までで良いのではないか。→親の介護で戻って来るなど、50 歳・60 歳台からの Uターンが多くなってきている。回答の年齢はそのままのよいと思われる。
- ・問 6 の“就職”は、移住して来ての就職なのか、事業承継での就職なのかが分からない。→設問に家業の継承と言う選択肢を加える。
- ・中間報告の目処は 12 月。分母については 200 か 300 集めたい。QRコードなどを付けてもよいが、デジタルに対応出来ていない事業所もあるため、経営者には紙で送付してほしい。(高橋委員長)

(2) 北海道下川町の視察報告について

◆小野寺副委員長から説明

- ・人口は約 3,000 人。津谷のような町並みのイメージ。大型のスーパーやコンビニも近所に無く、宿泊施設は町で経営をしている。千歳空港からは 3 時間かかるほどに遠い。
- ・子孫に森を遺したいという思いから、60 年後を見据えた植林を続けている。
- ・間伐材を燃料にする事で、域内循環が生まれている。町の公共施設では、バイオマス発電の電気と熱を使い循環させている。
- ・町の職員のほとんどが SDGs に詳しい。町民のゼロカーボンなどへの意識も高い。
- ・人口約 3,000 人の町に、年間 20-30 人の移住者が来る。→町が行っている政策やビジョンに賛同して集まって来るのだが、何の仕事をしているかと言うと、林業も勿論多いが、町の困りごとを聞いて起業する移住者も多い。またハローワークが町内にないため、各社の求人が公共施設に沢山貼ってあり、移住者も含め町民が目にする機会が多く、ここでも人や仕事に関する地域内循環が工夫されている。
- ・50 代から住みたい町 NO.1

(意見)何かの特化「突きん出て」と、そこに興味がある人が集まるのかもしれない。

◆菅原会頭から補足説明

- ・町民の会議に参加させてもらう事が出来た。その中で 2 つ明確なものがあつた。
(ア) 町のビジョン、ありたい姿が明確且つ町民に共有されている。

町の総合計画は、毎年町民も参加する中で、スクリーニングを行うなど、軌道修正や方針を明確に打ち出している。

(イ) 「循環」がキーワード。持続可能なまちづくりを目指しており、「やる気のある人が前に進んで行けるような環境」を町が作ってくれている。総合計画を町民に開示し、一緒にまちづくりを考えている。

・気仙沼にも「世界と繋がる豊かなローカル」というスローガンがあるが、市民のほとんどが知らない。また、人材育成や地産地消の取り組みは気仙沼も素晴らしいのに、それぞれがバラバラに動いており連携が取れていないのが現状。

・下川町は、農業と林業が主な産業で、観光面は0に等しい。

★11/9(水)16-18時 枝廣先生をお呼びし、産業関連表説明会がある(地域内消費拡大推進委員会)

ぜひ、人口減少対策委員会の方でも興味のある方はオブザーバー参加いただきたい。

19-21時 枝廣先生をお招きし、女性のための勉強会を行う予定

★11/24(木)または11/27(日)に再度、下川町の視察が市で予定されている模様。希望者が居れば事務局へ。

※委員長より:各部会で視察や講師招聘したい場合は予算があるのか?

⇒会頭より:人口減少対策委員会としての予算はある。随時相談して欲しい。ただ予算に限りがあるため、各検討部会で企画した視察等で自己負担をお願いする場合もあると思う。

(3)各検討部会からの報告と今後のすすめ方について

◆行政連携分野検討部会(高橋委員長から説明)

・11/4(金)と11/14(月)に部会を開催する。11/4については、市の赤坂室長も出席いただき、前回説明していた市の施策をさらに詳しく説明していただき、深掘りする予定。

・「行政人口減少対策の整理一覧表」を使って、年代、分野ごとに対策などの整理も行いたい。

◆経済活動分野検討部会(廣野副委員長から説明)

・新卒、中途採用などの就職について考えるのが部会のメインになると思う。下記の3つについて考えていきたい。

① 企業としてどんなことが出来るのか。定量的な給与から、定性的な文化、社風などに関して。

② 外部から人を呼ぶ取り組み、子どもが戻って来る取り組み、労働力不足を賄える取り組み

③ 「なぜこの人は定着しているのか」についての着眼点。

★最終的には「選ばれる企業になるには」の結論を出す。

(意見)・気仙沼の海は穴場のため、サーフィンをするために移住したいという人がいる。

・外国人の受け入れ=技能実習生ではなく、医者など高度な技術を持った人材を受け入れるなど、発想を変えることがこれからは重要なのではないかと。

◆20年後のまちづくり検討部会(原田さんから説明)

- ・10年毎に人口が約10,000人ずつ減っていくため、10年後、20年後、30年後をどうしたいのか、どうしていけばいいのかについて考えていく。
- ・市としての「30年後はこうありたい」という考えが知りたい。
- ・スローフードや、スマートシティの考えも入れていくべきではないかと感じる。
- ・検討部会に若い世代の人材がほしい。

★コンパクトシティを目指す。

(意見)・イタリアは地方が強い。ワイン生産をブランド化、革職人が超一流等、ブランド品などが有名な地方都市も参考になることもあるのではないかと感じる。魅力あるビジョンを持って30年後までにどのようにしていくか。これまで気仙沼が取り組んできたスローシティ、スローフードを中心に、全面に出しながら気仙沼のビジョンを作ってはどうかだろうか。その中で資源のこと、SDGsは繋がってくると個人的には感じている。

- ・皆、なんとなく食の方向性のイメージ、例えば森は海の恋人運動などのイメージをもっていると思うが、20年後のまちづくり検討部会でより掘り下げていただきたいと思う。

(会頭)・市で2つの会議が立ち上がる

- ① 持続可能な市民会議(来年の3月頃)
- ② 人口減少 ※「10年後・20年後を見据えて今何をすべきか」というテーマがあるが、それぞれの考えている10年後・20年後は違うため、目指したいのは何なのかのビジョンを共有しなければ危険だと市には伝えている。

また、場合によっては本委員会で検討したことを市の委員会に繋げていくことも一つとして考えられるのではないかと感じる。

(4)その他

◆「市が民間企業に期待する事」の市長さんからの返事について

- ・高橋委員長が要約した「市が民間企業に期待すること」の資料を朗読説明。資料の取扱い注意。議事録と共に委員に配布するのは構わないが、委員以外へのコピーは不可。

(意見)

- ・「第二子、第三子は？」などと、女性に対して「産め、増やせ」は違うのではないかと感じる。発言・表現には気をつけていきたい。
- ・人口減少問題について三陸新報で連載をするなど、市民への意識づけも大切なのではないかと感じる。
 - ・2割のやる気のある人と8割の関心のない人の意識の差をどう埋めていくか、危機感の共有、モチベーションを上げることが必要。
 - ・次のスローガンも提案しても良いのではなか。 (もっと市民に浸透するものを)
 - ・先ほどの下川町は町民の2割がまちづくりに興味があるとのことだったが、背景にはこの街がなくなってしまうと

いう危機感があったのだらうと思う。女川町は「新しいスタートが世界一生まれる町へ」をスローガンにしているが、規模は違えど、気仙沼も皆がやっぺいこう！と思えるスローガンが必要だと感じた。

◆委員会メンバー追加候補リスト

- ・移住定住支援センターMINATO
- ・ケセンヌマコソダテノミカタ
- ・ピースジャム 代表:佐藤賢さん
- ・Cloud Japan
- ・(株)フジミツ岩商 取締役:岩渕崇仁さん ※まちづくりへの意識が高い

※次回(11/18)の委員会に出席いただくよう調整。検討部会にも入って頂く。

◆人口減少対策委員会 今後の日程

- ・11/18(金)16時 商工会議所4階 会議室
- ・12/15(木)16時 商工会議所4階 会議室
- ・1/23(月)16時 商工会議所4階 会議室
- ・2/24(金)16時 商工会議所4階 会議室 ←確定
- ・3/17(金)16時 商工会議所4階 会議室

11:45 閉会

第4回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和4年11月18日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、谷村明信、森雅志、村上浩之、
小山憲一、原田雄介、岡本貴之、柴田静佳、小山裕隆、鈴木歩、千葉可奈子、田中惇敏、岩渕崇仁、
佐藤賢、小玉知子、加藤正禎 以上18名

○オブザーバー:市産業戦略課 齋藤課長補佐

雇用創造協議会 畠山、白幡

○会議所:菅原会頭、佐藤総務課長、佐藤係長、白幡調査役、熊谷、小野寺(青年部担当)

○会議所青年部:佐藤会長、齋藤補佐

1. 開会 16:05

○委員長挨拶…メンバー5名を新たに補強。各企業にアンケートを送付している。アンケート結果をいかに今後につなげるのが課題だが、まずは回答を集めなければならないため、委員のみなさんからもアンケートの声掛けをお願いしたい。議題に入る前に、会議所青年部からイベントの説明がある。その前にまずは、新メンバーのみなさんから一言ご挨拶を。

■新メンバーからの挨拶

●気仙沼市移住定住支援センターMINATO チーフコーディネーター

千葉 可奈子さん(行政連携分野検討部に配属)

移住者の声を伝えていきたい。Uターン組。

●特定非営利活動法人 ピースジャム 代表

佐藤 賢さん(行政連携分野検討部に配属)

気仙沼市に貢献出来るよう頑張りたい。Uターン組。

●(株)フジミツ岩商 取締役

岩渕 崇仁さん(経済活動分野検討部に配属)

25年振りにUターン。気仙沼のために貢献したい。次の世代により良い気仙沼を残したい。

●気仙沼コソダテノミカタ 代表 / 認定NPO法人 Cloud Japan 代表理事

田中 惇敏さん(20年後のまちづくり検討部に配属)

福岡からIターンで気仙沼に。宜しくお願いします。

●イオン東北(株)イオン気仙沼店 衣料課長

小玉 知子さん(20年後のまちづくり検討部に配属)

気仙沼市とイオンが包括連携を結んだこともあり、気仙沼市に貢献したい。

■気仙沼商工会議所青年部 婚活イベントについて

<イベント内容>

●12月17日(土)10:40~16:30で婚活イベントを行う(20代~40代:男性50名、女性50名)

●参加条件は「独身・パートナーがいない」「気仙沼に住んでいる or 気仙沼に嫁ぐ意思のある方」

- ・実施内容、目的などは配布チラシの通り。
- ・特筆すべきは個人ではなく企業にエントリーをしてもらう。背景としては、男性は集まりやすいが女性は集まりにくい傾向があるため、「会社から行って来いという指示があったから参加した」という状況を作って人を集めようと考えている。企業側も福利厚生に繋がると思われるのでご協力、各社から参加のご協力をお願いしたい。

■議 題

(1)20年後のまちづくり部会報告と意見交換 発表:小野寺紀子部会長

- ・「そもそも、なぜ」を掘り出し、原因と背景をちゃんと洗い直す必要があると考えている。
- ・人口減少については、そもそも環境が出来ているのか、子育てと仕事を両立出来る環境を整えなければ出生は増えない、などの意見が出された。
- ・市役所職員の出生率は前にお願ひしたが出てない様ではあるが、給与水準が市域では高いと言われている市職員であっても意外に出生率が低いと予想している。それは、「給与が低いから子供が作れない」と言う仮説と相反するものであり、原因は別なところにもあるとも言える。例えば“残業が多い”など。
- ・気仙沼市において人口減少や少子化問題にどの程度予算を割いているのかをまずは開示してほしいと言う意見もあった。※世界の平均予算GDP比 2.34%
- ・気仙沼市を「母子家庭特区」にするなど母親(女性)が一生懸命働くことができ、子育てが他地域より行いやすい地域、そういった仕組みをつくることも有意義ではないか、と言う意見があった。

(意見交換)

- ・テーマを絞って部会構成にしたので当部会では「楽しく老いていくには」「豊かに生きていけるようにするには」を議論して欲しい。また人口が減少したときにどのようなまちづくりをするのかもこの部会のテーマにして欲しい。人口減少対策は「人口を増やす対策」、「人口が減った時どういふ街づくりをするかの準備」の両立で考えてい

く必要があり、今後の部会で議論して欲しい。

・スローフードをもっと気仙沼に定着させたい。

・このまちのビジョンをどこにおくのか。ドバイは“世界一のものを作ろう”というスタンスで町を作り、人を集めている。

事例は国内だけでなく海外にも目を向けなければいけない。人口を増やすという点では、外国人を入れるという事も含めていいのではないか。それに伴い、外国人の発言の場が気仙沼には無いという部分は今後見直していかなければならない。

・気仙沼も何かに特化していかなければならない。

・ウェルビーイングがキーワードになる。

※「well-being(ウェルビーイング)」とは、直訳すると「幸福」「健康」という意味。幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態をいいます。

(2) 経済活動分野検討部会報告と意見交換 発表: 廣野一誠部会長

・部会が開催できなかつた為、新メンバーや欠席者への前回の説明。

- 1 人口減少対策について、企業としてどんなことが出来るのか。定量的な給与から、定性的な文化、社風まで、様々な方法が考えられる。
- 2 外部から人を呼ぶ取り組み、子どもが戻って来る取り組み、労働力不足を賄える取り組みを検討すべきと思っている
- 3 「なぜこの人は定着しているのか」についての着眼点から検討してみたい。

・社内のことになるが、若手が「パソコンのキーボードが古くなったため買い換えてほしい」ということさえも言えないような社風になっていたことに気が付き恥ずかしかった。社員への気配りを細目に行えば、退職者も減っていくのではないかと感じた最近であった。

(意見交換)

・若者がどんなことを求めているのか。新しい若者の生き方についても考えていくとよいのでは。

(どんな働き方、どんな収入の得方を若者は望んでいるか)

・市内に無い職種、例えばホームページや社内のシステムを組む場合、市内に業者が無く仙台東京等に外注することになるが、こうした状況が周知されていると起業しながらUターンする、或いは創業した会社に就職すると言う様に、減少対策にもなるし、雇用も変わるのではないか。

・気仙沼でも7社でジョイントワークを行い、人材のシェアをしてる(マルチワーカーを作る)。

- ・ノマドワーカーともいう。

※ノマドワーカーとは、遊牧民や放浪者を意味する「nomado」から来ている用語。遊牧民のように、決まった場所に滞在せず、仕事を転々とする人。決まったオフィスに毎日出勤する働き方とは対照的な働き方。

- ・一方で存在する後継者がいない会社、商店の社長を募集する、と言う事業なども減少対策だけでなく、事業継承対策にもなり得るのではないか。
- ・そうすると市として、自由に求人広告を載せたり、日常的に市民や外の人目に触れる下川町のような伝言板のような物があるといい。
- ・起業のしやすさ、NPO 活動のしやすさもといった観点からも検討してみてもどうか。

(会議自体への意見)

- ・自分たちのスケールで考えないといけないのではないか(市への批判に行きがち)。話が大きくなりすぎているように感じる。
- ・我々も決めたことを自社に持ち帰り、実践する前提で話し合うべき。
- ・意見はどんどん言ったほうが良い。声にしなれば何も始まらない。
- ・人口減少を抑えるためにはどうすればいいのか、何をすれば増えるのか、自分・会社・行政はどう動けばいいのかの論点。
- ・「あの町楽しそうだな」「あの町チャレンジしてるな」と若者から思われる町にしたい。そうなれば、若者はおのずと集まる。
- ・公益性と共益性を混同しているのでは。
- ・気仙沼は情報発信が足りず、情報の収集力も弱い。もっと情報に敏感になるべき。

(3) 行政連携分野検討部会報告と意見交換 発表: 高橋正樹部会長

- ・「行政人口減少対策の整理一覧表」に沿って説明(青色: 移住者、赤: 市民、緑: 企業)。
- ・教育(子育て)欄の部分については詳細が分からないものが多く、今後、菅原統括官より整理して再度説明して頂くことになっている。
- ・生まれてから幼稚園に入るまでの0歳児から2歳児までの間の支援、大学進学後の支援が無いなど、表にすると支援の偏り、穴が見えてくる。今後それらを議論していきたい。

(4) その他

- ・前回会議でも話題にあがった気仙沼市転入・転出者アンケートを添付している。

強制ではないので回答数は少ないようだ。参考として後ほどお目通しを。

■調査講師招聘視察について

・女川町はどうか。「世界一スタート(チャレンジ)が生まれるまち」と言われている。

※提言を3月としているため、視察をするのであれば1月末まで。

・菅原市長と話をしたい。

■会頭より

・ビジョンはどこなのかを話し合うのもいいと思うので、意見はドンドン出してもらいたい。

・スローフードの概念とデジタル化は相反するものでもない。気仙沼は前橋市(スローシティ)と交流がある。前橋市はスローシティ宣言をしているが、デジタル都市構想も同時に進めている。「デジタル化を進めることで、空いた時間をスローに」「デジタル化を進めることで、目の届かなかった人にも支援を」という明確な取り組みがある。

■閉会 18:05

◆人口減少対策委員会 今後の日程

・12/15(木)16時 商工会議所4階 会議室

・1/23(月)16時 商工会議所4階 会議室

・2/24(金)16時 商工会議所4階 会議室

・3/17(金)16時 商工会議所4階 会議室

第5回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和4年12月15日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、森雅志、村上浩之、小山憲一、原田雄介、高橋夏帆、鈴木歩、加藤美帆、千葉可奈子、田中惇敏、岩淵崇仁、佐藤賢、小玉知子、加藤正禎、齋藤和代、以上17名

○オブザーバー:市菅原人口減少対策統括官
雇用創造協議会 畠山、白幡

○会議所:菅原会頭、熊谷事務局長、小野寺部長、佐藤総務課長、白幡調査役、佐藤

1. 開会 16:00

○委員長挨拶…本日は年末の忙しい中ご参加いただき感謝します。これから年度末にかけて委員会の締めくくって行くことになるが、毎回時間の無い中での話し合いになっているので、本日は振り返りシートも用意したが、委員会の中で多くの委員の皆さんから意見をぜひ出して頂きたいと思うのでそういう進め方をしたいと思う。そしてそれを持ち帰って、また部会の方で意見交換していただきたいと思う。2つのアンケートの中間報告も行われるが、今日の今日なのでアンケートは持ち帰り頂き、振り返りシートなど後日ご意見頂きたいと思う。本日は宜しく願いたい。

■議 題

(1)各部会からの報告

◆20年後のまちづくり検討部会報告 発表:田中惇敏委員

・12月6日に部会をオンライン形式で開催したこと、別紙の資料のデータで意見交換を行ったことを報告。

・その資料に沿って委員会でも共有をおこなった。

・人口については①出生率、②10代後半の流出率、③移住者 U ターン者の定住数によって結果が変わる。いずれの数値を変えてシミュレーションにしても人口減少の方向性は止められない。

① 出生率を現在の 1.53 から 1.90 に換えても、今後の総人口は劇的には変わらない。

② 10 代後半の流出率を現在の 42.8%から半分の 21.4%に変えると減少はやや緩やかになる。

③ 移住者 U ターンの定住数を現在の 625 組から仮に +420 組とすると、②よりも良い数値となる。

以上のことから、効果ある順番は、①定住支援、②地元流出防止策、③子育て支援の順であると考える。

・その結果から20年後のまちづくり部会では、以下の3パターンのシミュレーション結果で意見交換した。

① ドバイモデル:様々な支援策にお金を投じ、出生率 2.0、流出率 100%減、移住数約倍に上げたパターン

② スローシティモデル:出生率はこのまま下がるが流出を多少防ぎ、移住数を微増させるパターン

③ ファンモデル:出生率現状維持、流出率を②より下げ、移住数を②の倍、子育て世代をより移住させる

パターン

・総じて、どのモデルをとっても人口の下げ止まりは難しい。よって気仙沼独自の価値を考えることが大切なことから発展的な議論として、楽しい地域づくりの事例についても話し合った。例えばぬま大学8期生の発表の後の伴走型支援がない、どこかの団体が支援しているということもなく勿体ないことから、社内起業的な形として、ぬま大学卒業の若者がやりたいことが実現出来る様に商工会議所等の支援があっても良いのではないかと語る様な事例である。そうすれば若者が様々な挑戦をしている楽しい新しい暮らしをしているまちと言う未来を目指すのではないかという意見となった。

補足:小野寺紀子検討部会長

部会に田中委員に入り、数値化され方向がはっきりした。視察に行った下川町は、まちの困りごとを移住した若手が仕事をし、またまちの方々も移住者のサポートを行っている。気仙沼でも移住への支援だけでなく、移住後の仕事が見つかる、同時に地域の役に立つ様な仕組みが実現できると良いと思う。

(意見)

・出生率のみ、又は流出率のみ変動させた時の数値はどうか。

⇒シミュレーション出来るHPを紹介するので様々に試して欲しい。

・ドバイモデルでは効果が低い様な説明だったが、2060年に5万人程度と、他と比べ一番効果があるのではないか?表現にやや疑問を感じた

⇒一番効果はあるが、それでも人口増になる訳では無い。出生率のみを上げれば事が解決する訳では無いという事で良いですね(委員長)

◆経済分野検討部会報告

・開催できていないので、次回報告したい。

行政連携分野検討部会 発表:高橋正樹検討部会長

行政連携部会は、11月28日と、12月6日に行った。市の菅原統括官より様々な支援制度について説明を受け、深堀りを行った。0歳児から2歳児までのお金が掛かる部分や割引や補助がある部分など細かい点まで説明頂いた。今後、支援制度で足りない部分、制度はあるがあまり知られていない制度もあると思うので、市の制度を批判するのではなくより有効に活かせる様に本格的に議論し、まとめていきたいと考えている。

(2)雇用と人口減少対策に関するアンケート結果(中間報告)

1238事業所のうち、259事業所より回答があった。調査データは、事業所の規模別、業種別でも分析できるので、

本日の振り返りシートを含め、委員会部会で後日意見を頂きたい。

(3) 移住者アンケート結果(中間報告)

様々な団体の協力により、286名より回答があった。今回は中間報告なので、今後、独身者や既婚者などクロス集計で分析していきたいと思う。自由意見は追加で今後資料をお配りしたいと思う。

(意見)

- Uターン、Iターンだけ、また年代別で分析も行ってみたい。⇒行う
- ターン者だけでなく転入転出の方の意見を聞いてみたい。
⇒市の市民課でも届け出の時にアンケートをとっているが強制ではないため回答が少ないようである。しかし今後何年住む予定か、またその理由を尋ねている項目はあるので、そこで分析してみることは出来る
- 間14の10点満点の指標があるが、他の自治体でも同様の指標があれば比較を見てみたい。
⇒探してみたい。あれば次回以降資料として提出します。(雇用、事務局)
- アンケート結果で設問項目が一部切れているものがある。次回は、設問項目がわかる形で再提出いただきたい。

(4) 意見交換

◆委員長より配布資料「人口減少の重要な要素に関わる意見交換」について説明

委員長： これまでの委員会で皆さんから出てきた意見、アンケート中間報告で各事業者や移住者から出てきた意見から、人口減少の要因や人口増の阻害要因になるもの、市民が認識しているポイントを抽出して意見交換のテーマとして上げてみた。一方で想定できる人口増のポイントをその下に上げてみた。次ページは、縦軸に「市民が認識する人口減少の課題」、横軸に「人口増に繋がると予想されるポイント」を置いて、課題の各項目を改善するとどのポイントに効果があるかの大きさを◎、○、△で示し、効果のないポイントのマスはblankとした。一方で、行政、会議所で精力的に効果的に取り組んでいるか否かで色の濃淡を付け識別した。例えば外国人に関する方針は、一部業界では行っているも、市、会議所では全市的な方針を出しているわけではないので、その課題項目は一行、何の色もついていないという事である。各マス、どちらかが対策をしていれば薄い色、双方してあれば少し濃い色、どちらかが精力的に効果的に取り組んでいれば濃い色、双方とも効果的に取り組んでいれば黒に近い色をそれぞれのマスに着色した。

この整理をした表を念頭に、事前にテーマもお伝えしていたので、今日は皆さんお一人ずつ考えている方向性や、感じていること、具体的なアイディア等意見を伺えればと思う。全員に発言して頂きたいので、各自簡潔に述べて頂く様ご協力をお願いしたい。

◆意見交換

小山委員:今朝の地元新聞で子育て支援の補助の記事を見て良かったと感じた。建設業を行っているが、新規で事業をやる方からの建築の問い合わせが2社ほどあるが、この地域でこうした新しい企業、事業がどれだけ生まれるかが大切だと思う。新規の企業、事業を増やすための情報発信に取り組むべきと考える。

村上委員:雇用と人口減少対策に関するアンケートの中で居住費が高いという意見がある。公営住宅の使い道も大切である。また、幼少期から気仙沼の魅力を植え付けていくことが重要だと思った。教育や周囲の大人の在り方が大切。医療に関しては、脆弱だと思う。以前の意見でもあがったが外国の医師を呼ぶことも検討すべきと思う。例えば、在宅の看取りが仙台はできるが、気仙沼は難しいという現状もある。個人的には様々考えるところもあるが、外国人の移住も大切だと思う。

加藤美委員:子育て支援も様々あるが、結婚や子育て以前に地域として移住定住するのに魅力的な選択肢があると良いと思った。20代の若者がいろんな生き方ができる選択肢がある地域だと良いと思う。

千葉委員:気仙沼は収支バランスが悪いという声は移住定住支援センターを運営していてよく聞く。移住定住支援で1年間は公営住宅等に格安で住居できるが、その後が課題となっている。今、1LDKで5万円程度が相場となっているが、ずっと安ければ良いと言う話ではなくて、例えば3年あれば給与が上げられる企業ならば、3年移住定住支援で受入れその後は自立していく様な支援策の流れが出来ると良い。

委員長:現場にいて効果的と思える策があれば、今後ドンドン具体案として出して欲しいと思う。

森委員:先ほど人口シミュレーションで提示頂いたが社会構造上変えられない物もある。近い将来、労働力の確保は必ず問題になると思うので、外国人の今の戸籍登録についても考えていくことが必要。先ほど意見があったように、若者がこぞって集まって来る地域となると良い。個人的には市域の居住費は高額とは思わないが、それが問題なのであれば移住者には無料するなどの方法もあろうかと思う。それよりも大切なのは10代、20代、60代、70代に学びの場がないことだ。オンラインなどに高額なお金をかけずとも、勉強できる仕組みもあると良いと思う。

委員長:20年部会では学びの場も考えて行って欲しい。その深堀りもしていただきたい。

原田委員:気仙沼の地域がいかに魅力的かを住んでいる人が認識することが大切であり、小さい頃からのその教育も必要である。一旦流出しても戻ってきたいまちであると良い。先日、大学生との懇談も行ったが、釣り好きな学生がYouTubeで気仙沼の釣り動画(アナハゼティ)を良く見ているなどの現状もあるようなので、気仙沼の発信力を持つ人を支援しても良いと思う。

加藤正委員:医療の分野で医師とどれくらい近い関係であるか、市立病院の内容や存在、社会の安心のバランスも重要なファクターであると感じる。

斎藤和委員:先ほどの20年部会報告の中のファンモデルを作っていけたら良いと思う。気仙沼として、会社として

何ができるのか考えていきたい。また、同時に様々な人を受け入れるまちづくりであると良い。学びの場所として、意識が高くなくとも参加できる場所や、繋がりのある街をつくれると良い。

佐藤委員:アンケートの結果を読み込むと市内の企業の多くが若い人の割合がかなり低いことに驚いた。また所得や家賃、仕事に障壁はあるが、そこに拘らず、地域外で仕事や所得は成り立っている方々が気仙沼に来る、関わりを持つなど交流人口を広げる中で、定住者を増やしていくことも方法では無いかと感じる。よって、気仙沼に住んだ時のメリットがより明確になると良い。

委員長:確かに交流人口を拡大する仕組みをしっかりと作り、その後、定住を増やして行くことも1つの方法と思う。

岩淵委員:家賃が高くなっても困らない給与が払える、付加価値を上げられる企業をつくっていくことも必要。

①企業誘致、②外国人促進、③カジノや映画館などの遊びの場が大切と感じる。企業誘致においては、既存の業種にとって大きな同業者の誘致はリスクも大きい相乗効果の得られる様な誘致の方法が必要。②外国人の活用に関しては、世界と繋がる豊かなローカルと言うビジョンに相応しく、思い切った政策とし、例えばこのような場にも、外国人が入り議論することも必要と思う。③遊びにおいては、カジノや映画館、ウォーターパーク、コストコなどがあると良いのではないと思う。外国人及び子供達からこうした意見を聞くのも良いと思う。今後、経済分野検討部会でも検討したい。

小玉委員:医療・教育となっているが、医療と教育は分けて考えても良い。交流人口を増やしていくのであれば観光の項目があっても良い。出生率を上げても人口が減っていくのであれば、多様性をもった地域の切り口も必要だと思う。

高橋夏委員:①企業の抱える課題は人材不足と思うが、求人方法そのものが若い世代の求職方法とミスマッチが起こっているのではと感じる。各企業とも求人方法をハローワーク以外にも広げ、ネット等でも出来る様にする、支援することが大事。②二番目に子供の頃から郷土愛を育む場があると良いと思う。自分の出身の南気仙沼小では、小学2年時に大川で鮭の放流を行い、小学6年時になる頃にその鮭が遡上してくることを学ぶ。また、家庭科では魚のさばき方も学んだが、それらを都会にいた頃に周囲に話すのはとても誇らしかった。そんな誇らしい出身地であることが帰ってくる事にも繋がっていると思う。③三番目に女性活躍についてであるが、たった3ヶ月後の学校の行事の日程がはっきりしていないことが多く、働く母親世代が有休を申請できないなどの現状がある。そんなことの改善もより働きやすい場づくりになっていくと感じる。

鈴木委員:先ほどの人口減少の数値での説明は見える化されていてとてもわかり易く良いと感じた。よく聞く「一度出たが戻ってこれない方々」のために何か出来ないかと思っているが、毎回、目からウロコ、大変勉強になっている。雇用と人口減少に関するアンケートで分かった5人以下の企業が半数を占めて

いることを考えれば、企業間で共有したり経理の人材などをシェアリング出来ると良いと感じる。

委員長：小規模事業者同士で何か仕組みができると良いと思う。後継ぎがない事業所もあるので、事業承継の仕組みができるのも良い。そんな分野を具体化まで部会でまとめて欲しい。

田中委員：①2040年を考えると長寿により高齢化率 51.47%となる。健康寿命対策をしっかりと考えたい。②空き家対策として、起業・創業で活用するという切り口もあると考える。

委員長：現時点でも山をもらって欲しいという人がいるが、今後住む人がいなくなり家をもらって欲しいという事例が出てくる可能性はある。

廣野副委員長：周囲を見ていて行政を民間市民が後押しすると同時に、地域にとって特異性のある、まちづくりに効果的な企業、例えばリアス調理専門学校の様な民間企業を行政がもっと後押しすることがあっても良いと思う。居住などについてはリフォームする人、売りたい人、シェアハウスを作りたい人、住みたい人などが繋がる仕組みなど良いと思うし、市や商工会議所が支援できる分野でもあると思う。

委員長よりまとめ：多くの意見、感じていることについて、明確なもの、モヤっとしたもの色々あったが、沢山の意見に感謝したい。当委員会のビジョン、コンセプトと表現して良いのか解らないが、今日の皆さんの意見、そしてこれまでの委員会に出ていた考え方に共通しているのは、総花的に様々な施策を実施しても効果はあまり期待できず、それよりは絞って狭い範囲になっても良いので、気仙沼らしい、唯一無二の思い切った、尖った施策を実施すべきである、という事だと思う。本日の皆さんの意見を頭において、尖った、思い切った施策の提案を各部会でまとめて行って欲しいと思う。宜しくお願いしたい。

◆会頭より

ぜひ気仙沼らしい解決策を考えていただきたい。数値化することで現実味をおびてきた。

交流人口は今一生懸命取り組んでおり、Iターン、Uターン、移住定住を促進していきたい。

地域の消費額を落とさないといったことや、様々な選択肢がある気仙沼地域をつくっていくことも大切である。気仙沼らしい突き抜けたものを具体論として出していただきたい。

■閉会 18:00

◆人口減少対策委員会 今後の日程

- ・1/ 23(月)16時 商工会議所 4階 会議室
- ・2/ 24(金)16時 商工会議所 4階 会議室
- ・3/ 17(金)16時 商工会議所 4階 会議室

第6回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和5年1月23日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、菅野潔、森雅志、雨宮留美子、高橋夏帆、柴田静桂、小山裕隆、齋藤和代、田中惇敏、岩渕崇仁、小玉知子、加藤正禎
以上14名

○オブザーバー:市菅原人口減少対策統括官、雇用創造協議会 畠山、白幡

○会議所:菅原会頭、熊谷事務局長、小野寺部長、白幡調査役、佐藤、熊谷

1. 開会 16:00

○委員長挨拶…今年は卯年、あやかって巷では飛躍の年に、と言われているが是非良い年にしたいもの。年初から菅原市長さんから人口減少対策への予算の発表もあったが、新年度は市の委員会もスタートする。我々は本年度末に向けて委員会開催も本日を含めて3回となった。言い残すことの無い様に本日も、活発な意見をお願いしたい。

■議 題

(1) 各部会からの報告

◆行政連携分野検討部会 発表:高橋正樹検討部会長

資料に沿ってこれまで話し合ってきた経過、ポイント、その中身を説明。

1. 結婚支援関連は知らなかった施策が多く、見え易さ分かり易さが重要。自然な若者の出逢いの場が必要。
2. 子育て支援関連は、お金より不妊治療の病院が遠い事や父親が産休育休を取得できる風土づくりなど違う課題も認識。託児所も様々な場面で利用できる多様性の工夫が必要(病児保育、夕から遅い時間の保育、親が病気の場合の緊急保育、親の休日に預かる保育など)
3. 居住支援関連は、移住後の期間限定の支援策やUターンにもIJターン同様の支援の必要性。
4. 企業活動支援関連は、地域内での不足の業種の洗い出し及び起業募集や会議所理財厚生関連部会による事業承継情報からの継承者募集や被災土地の活用募集などを市と会議所が連動して市内外に発信することも対策として検討すべき。
5. 移住、採用就労支援関連は、様々な実績が出ていて堅調な中、県内高校生への発信や地域おこしのもっと積極的な募集体制、方法の検討の必要性。
6. 企業誘致関連は、制度は整っていると感じるので、全市を上げてキャンペーンをするなどの取組みが必要。

7. 施策にない分野

- ・外国人についての大方針を地域として合意する必要あり。大いに市として迎え入れる方針となるならば、会議所は制度の研究と未導入への業界への積極的導入促進を実施すべき。
- ・LGBTQ についても方針を検討すべき。

8. 全体を通して

- ・各分野とも様々な支援策の取組みを評価する一方、周知、特に外部への発信には工夫と努力が必要。
- ・尖った(極端な)施策でないと効果は表れにくい。まずは、大きく流出する高校卒業時、或いは成人式の時に地元と結びつける手立てが急務。
- ・何より行政が行っている市域における支援策の発信、問い合わせ対応、企画検討、市域の調整、企画の推進を行う専門窓口、専門部署の設置が急務

(意見)

- ・LGBTQ に関しては、一関市は既にパートナーシップを実施しているが、当市では SDGs の大きな枠組みの中で多様性という捉え方で受け入れられるのではないかと。
- ・栗原市ではタレントの狩野英孝氏を起用して、一関市などに移住 PR のテレビ CM を放送しているなど他地域では人口減少対策においてはその様な状況。当市も急がねばと感じる。
- ・報道されていた議会委員会の人口減少対策、これから立ち上がる市の人口対策委員会との連携・共有はどの様になるのか？

→会頭) 市長さんが予算を示したことで急な動きになった委員会もあるが、会議所、議会、市の思いや方向性は同じ。意見を共有しながらより良い知恵を皆で力を合わせて展開できる様に今後、先に会議所がある程度の答申が年度末に出るので、それを共有しながら連携して行くつもりである。

◆20年後のまちづくり検討部会 発表: 田中惇敏

資料に沿って説明。20年後の気仙沼はどんなまちであるべきなのか。→Society5.0 創造社会を前提に考えるべきとこれまで話し合ってきた。(Society5.0 創造社会とは、未来社会として政府が提唱している超スマート社会。デジタル革新と多様な人々の融合によって自らが「つくる」ことが出来る社会。)

高齢化率 50%となるなかで、何が出来るのか。全世代が生涯教育・生涯実践として活躍できるようなまちづくりをしていかなければならない。

- ・3時間大学構想: 一人ひとりの創造を支援するため、時間と場所に制約されず学び続けることが出来る機会を提供する。全世代が空いた時間に学び続け、活躍し続けることが出来る地域づくりの基盤事業。

・OSUSO TOWN 構想:市域で挑戦しようとしている個人、団体を市域の行政、企業、市民が様々な形で支援し続ける仕組み。

を提案。

(意見)

- ・AI が主となっていくなかで、AI では出来ない産業に着目することが必要だと思われる。
- ・年齢を重ねても学ぶことが出来るよう「学ぶ機会・学ぶ場所」を提供していくことが重要。
- ・「小さい挑戦がたくさん起こっている気仙沼」をつくりたい。
- ・現在市が取り組んでいるぬま大学などから進化した部分が読み取れる様な図表、表現を工夫した方が良い。
- ・最終的に各提案が、Society5.0 創造社会の「海と繋がる温かみのあるまち」に繋がるように見える図表となることが望ましい。

◆経済分野検討部会 発表:廣野部会長

資料に沿って説明。

- ・「企業として出来る取り組み」「外部から人を呼んでくる取り組み」「移住者の気持ちを理解する取り組み」の三本柱について部会内で話し合いを行った。
- ・深く話し合ったのは、賃金を上げるための問題点と解決策、婚活事業、若い世代のコミュニティ形成。
- ・今後、具体的な施策をまとめていきたい。

(意見)

- ・経済活動分野での議論も行ってほしい。市域の企業共同で何かを企画する(託児所を共同運営出来ないかなど)、何かを推進するなど。
- ・副業への支援策。企業間副業、季節副業制度の検討など、賃金アップにも繋がる施策の検討もありでは無いか。

(2)雇用と人口減少に関する市内企業アンケート結果について

→担当課長が体調不良で不在のため後日委員の皆様へ電子メールで郵送する。皆で意見など情報共有したいので、各自の電子メールアドレスが分かる形で送付となることをご理解いただきたい。

(3)移住者アンケート結果について

・雇用創造協議会畠山氏より集計結果について資料に沿って説明。

→各自家に持ち帰り読み込んで頂き、意見集約のベースにして欲しい。

- ・震災後移住した若い世代の意見を U ターン者、IJ ターン者と分けて知りたいので、再度資料を作成して送付するので、そちらも参考にして欲しい。

- ・他にアンケート集計の分析の希望があるか？ → 上記以外、希望無し

(4)その他

- ・青年部婚活事業について説明。従業員同士の横のつながりを作りたい。男性は定員となったが、女性が足りないため、各企業で声掛けをお願いしたい。男性の年代は30代～40代が多く、女性は20代の申込みが多い。

◆会頭から

- ・「学び」に対して、企業として社員に学びの場・機会を提供しなければならない。

- ・副業を認めている企業は少ないが、副業出来るような環境づくりを今後進めていかなければならない。

東京の上場会社の部長で副業を持った方に先日お会いした。そんな時代。認識をあらためていくことも必要である。

- ・2/15 にスローシティウェビナーがある。前橋市長、気仙沼市長、私がディスカッションする。WEB で視聴可能になっているため、ぜひ聴講してほしい。

◆高橋委員長から

- ・視察を検討していたが、コロナもあってこの時期になり難しいと思われるため、視察は実施しない。

- ・ネットで出生率2.8を超えている岡山鳥取の県境の奈義町の取り組みが出ていたので議事録やアンケート結果を送るメールで共有するのでご覧になって欲しい。また視察には行けないのでネットやテレビ放映などで人口減少対策について良い情報を見かけた場合は事務局経由で共有したいので提供してほしい。

■閉会 18:00

◆人口減少対策委員会 今後の日程

- ・2/24(金)16時 商工会議所4階 会議室

- ・3/17(金)16時 商工会議所4階 会議室

第7回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和5年2月24日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、谷村明信、森雅志、雨宮留美子、小山憲一、原田雄介、岡本貴之、柴田静桂、鈴木歩、千葉可奈子、田中惇敏、岩淵崇仁、佐藤賢、加藤正禎 以上16名

○オブザーバー:市菅原人口減少対策統括官、雇用創造協議会 畠山、

○会議所:菅原会頭、熊谷事務局長、小野寺部長、佐藤課長、白幡調査役、佐藤

1. 開会 16:00

○委員長挨拶…いよいよ、この委員会は3月に報告書をまとめる大詰めに入った。各部会や振り返りシートで意見頂いた内容を基に本日は報告書のたたき台を提出するので忌憚のないご意見を頂きたい。4月には市にも人口対策と持続可能な社会に向けた2つの委員会も立ち上がる。市長も会頭も連携していきたいとの考えなので、この委員会から出る報告書も連携する中でどちらかで具現化しながら進めて行くことを願ってまとめていきたいと思っている。今日も活発な意見を出していただくよう宜しくお願いしたい。

■議 題

(1)各検討部会からの報告

◆20年後のまちづくり検討部会 発表:小野寺紀子検討部会長・田中惇敏

先日、徳島の神山町の視察に個人的に行ってきた。光ファイバーの波にのり、古い古民家のリノベーションなども行い、学生起業、株式上場するまでの人も最近では出てきたとのことだった。

クラウドファンディングにより100億円の起業スポンサーが集まり神山まるごと高専をつくった。その100億円を海外のファンドに投資して運用し、運用益5億円を1年間の学費にする方法で学費無料を実現。今年44名採用したが、推薦入試は作文で熱意ある学生を採っている。

他にも、縫製工場をリノベーションしたレストランがあり、地産地消にこだわっていて、ふんだんに野菜を使った料理で町外の方は1,980円、町内の方は980円で食べられる。気仙沼の本吉津谷地区の町の規模だったが非常に魅力的だと感じた。

続いて 資料に沿ってこれまで話し合ってきた経過、ポイント、その中身を説明。

①【けせんぬま版コンパクトシティの実現】

神山町では公営住宅を民営化していた。気仙沼でも足腰を鍛え、内湾あたりに皆で住めるような老々集団生活ができる場が今後できると良い。

また、自動運転車のシェアリングによるミニマムライフが進むことも望む。

②【学びの場のあるまちづくり】

神山町まるごと高専のように、いつも学びのある街ができると良い。神山町まるごと高専は1年でノウハウが生まれると思うので、2校目を気仙沼に誘致したい。

また、フィールドワークを通じて気仙沼のスローフード、スローシティの概念を学ぶこともできるようになると良い。

③【挑戦をみんなで応援するまちづくり】

これまで様々な人材育成に取り組んでいるが、修了者に対しての伴走支援体制が確立していない。何か挑戦する人を応援する仕組みづくりを行い、事業承継を推進したり、20代から40代、すべての全世代の活躍があり、外から人が来るように、住んでみたくなるまちづくりに繋げたい。

④【住んでみたくなるまちづくり】

20年後のUターン者を考えた場合、地元の人たちがすごく楽しくやっているから戻りたい、ふるさとで生きることが面白いという土壌をつくり、交流の場を生んでいきたい。

日本一子育てを楽しめるまち気仙沼を目指した取り組みの中では今後は、一つの拠点に住むということがなくなっていく時代へと変わっていき、住民票を複数拠点におく検討も国では進んでいる。20年後には、住民票が一箇所ではなく、行きたい場所に、住民票・拠点を置きながら生活するという時代が訪れる。

無拠点居住の時代が訪れるが、自分が0～5歳の子供を持っているときは、どこかに定住しなければならない。

子供が小さいので転々とはできないので、子育てをするという切り口で、気仙沼を選んでもらえることを目指してみてもどうか。

気仙沼全体としてやれることとして、子育て支援施設で利用できる子育てシェアチケットを企業の福利厚生として男性の就業者に配布するなども考えられる。

(意見)

①【けせんぬま版コンパクトシティの実現】についての意見

- ・コンパクトシティについて、最終的に誰がやるのかが重要。どういう道筋で、どういった人がやるのか。公営でできないのか、外から人を入れてやるとか、一歩踏み出せそうなものを検討して欲しい。
- ・大きな不動産を動かす民間の力を借りられないだろうか。
- ・自然に負荷をかけない企業の発想も出てきている。企業を納得させるような強い形でのスローフード、スローシティを打ち出せないか。先日のスローシティウェビナーでも気仙沼のパワーは強いと感じた。

(委員長)絵にかいた餅ではなく、大きなディベロッパーがやりたくなる絵となると良い。

- ・復興の公営住宅があまっているとも聞くがいかかがか。

(委員長) 公営住宅は調べてみるとあまり余っていないし、用途の規定も厳しい。

20年後委員会では、サーフィンを目の前でやる集落をつくるイメージのようなものも考えていただきたい。

「スロー」という概念の中で何かできないものか。

また、子育てできるエリアを作ることも検討して欲しい。

- ・サーフィンでいうと防潮堤に囲まれてしまったことが痛手。なかなかサーファーが移住するとまではいかないエリアとなってしまった。また、最近の若者は自動車のバンをキャンピングカーのように寝泊まりする人も多くなってきている。

②【学びの場のあるまちづくり】についての意見

- ・(会頭) 気仙沼は学びの場作りに力を入れているので、まるごと高専と、まち大学のすみ分けとして、何が課題でどうしたら良いか掘り下げて欲しい。

現在、ぬま塾、ぬま大学、経営未来塾が重層化されていないという問題もある。

また、学びの産官学コンソーシアムなどもあり、縦、横の繋がりが必要。

- ・ぬま大学、まち大学は、市の地域づくり推進課の管轄、経営未来塾は市の産業戦略課の管轄、学びの産官学コンソーシアムは市教育委員会の管轄と、一般の人からはわかりにくい仕組みとなっているのも課題。

(委員長) せっかく、市で行っている一連のものなので、「学びの場のあるまちづくり」は形を変えて盛り込んでいけると良いと思う。

③【挑戦をみんなで応援するまちづくり】についての意見

⇒特になし

④【住んでみたくなるまちづくり】についての意見

(委員長) 八瀬地区、大島地区、小泉地区、唐桑地区のそれぞれのまちづくりを考えてもらえると良い。

- ・例えば陸前高田はスノーピークでキャンプ場をつくる。今、まちを作る会社がでてきている。

唐桑の御崎はモンベルと組んでキャンプ場をやる。そういった資本注入してくれる企業へのアプローチも必要であろう。

◆経済分野検討部会 発表: 廣野一誠部会長

資料に沿って説明。(※人口減少対策委員会報告及び提案書の◆経済活動分野検討部会より)

「企業として出来る取り組み」「外部から人を呼んでくる取り組み」「移住者の気持ちを理解する取り組み」

「行政に求めたい支援・陳情」の4つの視点より説明。

【企業として出来る取り組み】

(意見)

80歳になった時、年老いた人が楽しく働ける環境についても触れて欲しい。

入れるかどうかは検討として、20年後の雇用についても考えて欲しい。

【外部から人を呼び込む取り組み】

(意見)

・ワークインレジデンス(仕事を持った人や創り出してくれる人を誘致する)サテライトオフィスのような環境の良いリノベーションなどの場があると良いのではないかな。

神山町では、アップルの職員やクリエイターなど交流の場が生まれて、地域の自然環境と馴染んでいた。

・気仙沼で行っている「まちリク」のトーンダウンを感じるが、それを維持する取り組みも必要ではないかな。

例えば、従業員間のワークショップを合同で行い、社員同志の横の繋がりを生むことなども考えられる。

社内では同年代同志といっても限られるので懇親会付きで。また、外国人のポイントも抑えておきたい。

・外国人の講座などは、市の小さな国際大使館でも開催しているようだ。

(委員長)例えば商工会議所の既存の新入社員セミナーと、採用をセットで何かやれるのではないかな。

・意欲のある企業や団体は、既に様々な取組みを立ち上げているので、さらに新しい取組みを増やそうとしても、人材・時間・資源が競合してしまう。今回得られた新しい視点は、既存の取組みに加えて、進化させていくことを考えられると良い。

・気仙沼地域雇用創造協議会で立ち上げようとしている、人材確保会議ともひとつに繋がっていくと良い。一枚の絵で見えるものだとよりわかりやすい。

・全体のことだが報告書をデザインする人、視覚的に見やすくまとめる人をお願いできないものかな。

・近隣にはない広い人口芝のグラウンド(サッカー、ラグビー用)などもあるので、スポーツ誘致なども行えるようになるとう良い。

・閉校した学校を宿泊施設として、合宿に使ってもらうのも良い。

【移住者の気持ちを理解する取り組み】

(意見)

・移住者アンケートは今回実施したが、地元高校生アンケートの実施というのは未実施という認識でよいか。

→よい。なぜ一旦高校生が気仙沼を離れるのか知れたら良いかと思い提案した。

・コロナの事もあるが、震災直後に比べ移住者と地元の人がまじわるイベントが少ないという現状もあるので、繋がりができる取組みができたら良いと思う。

【行政に求めたい支援・陳情】

(意見)

- ・本行政に求めたい支援・陳情は国の内容なので、特区にしないと難しいところもあるのではないかと。
- ・扶養控除103万円、社会保険130万円の壁を考え直すことは、各地・各方面から国へ陳情が上がっているようだ。
- ・一定水準以上のベースアップを実現した企業への事業税減免とあるが、法人税の一部減免であるとよりありがたい。

(委員長) 抽象的な文言などは、報告書の「その他アンケートや委員のつぶやきアイデア集」の方に、今後移行していただきたいと思う。宜しく願いたい。

行政連携分野検討部会 発表:高橋正樹検討部会長

資料に沿ってこれまで話し合ってきた経過や話し合いのポイント、アンケートからまとめた対策案の中身を以下の通り説明。(※人口減少対策委員会報告及び提案書の4頁から)

【Uターン定住、Uターン強化】

◆考え方

Uターンに対してもIJターンと同じ考え方で支援すべき。市内企業からの求人求外注業務の情報収集と発信(下川町方式掲示板)の必要性。UIターン者に対する期間限定の思い切った支援策(2年間住民税免除、2年間公営住宅開放、または2万円の家賃補助)の展開。

◆事業継承&移住起業募集発信事業(別紙、事業詳細1)

イメージだが市内企業、市内商店から商工会議所が事業承継の状況をヒアリングし、難しければ会議所内の理財厚生関連部会の税理士の部会員からの情報で、先ずは他人への事業承継を希望している案件情報を発信する。次のステップで市外のUターンを希望する学生、社会人、市内在住の起業を狙う層も含め発信し候補者を募り、サードステップで、会議所が仲介してお見合い、事業継承、そして起業という流れが出来ないか、というもの。

◆不足事業移住起業募集発信事業(◆別紙、カラー資料参照)

前にも話したが、システム開発のような仕事は、多くは市外に発注するしかないという現状がある。

そういう市内に無くて困っている業種を商工会議所が、市外のUターンを希望する学生、社会人、市内在住の起業を狙う層も含め発信し、業務をやってみようかという人材を募る。候補者が現れたら、これは起業ということになるので、信用金庫、気仙沼市、商工会議所が面接審査をし、OKとなれば助成金や様々な支援事業を紹介しながら起業を支援していく、という事業である。

(意見)

質:どうやって発信していくかが大切。掲示板のようなものを考える必要がある。

(委員長):どこかに下川町の様な掲示板を作るか、ダイレクトメールか、或いはLINEの様なものか検討の必要性がある。

意:移住者にとって事業継承は需要があると感じる。

質:廃業を考えている人は2~3年前から検討しているはず。ましてや譲りたいということであればある程度秘密にしておくのではないか。

(委員長):勿論、企業名は出さないし、だから理財厚生関連部会の税理士さんから、「実はこんな仕組みがあって、地域に取って大切な事業だから他人への承継をしてはどうか？」と声を掛ける。「もしかしたら有償で引き継げるかも」と。

(専務):廃業を考えている人は相談しなくても良いと思っていることが多い。しかし、「あなたの事業はこの地域にとって良い事業なので、残してください」と伝え、気づいてもらうのが第一歩と思う。

(委員長)今まではこちらからお話するツールもなかつたろうし、「折角育ててきた事業なので継ぐ人を募集してみませんか」という呼びかけや、或いは有償無償はあるが、「黒字になっているので数千万で買いたいという人もいるかもしれません」などの誘いがあれば、対象者が出るのではないか。

(専務)その様な情報を得て、会員企業に踏み込んでいくというのはプロの方の役割だと思う。相続など、プライバシーに立ち入ることになるので課題は多い。会議所の職員でどこまでできるのかということは考えてみたいと思う。

(委員長) 事業承継も含めて会員の支援をするために商工会議所はあるのだから、知識を深め踏み込むのか、それが難しいということであればプロの税理士さん等に入っていただきビジネスとしてやっていただくのも良いと思う。ただ、言えるのはこの様に人口が減少していくと会社は成り立たなくなりドンドン無くなる、無くなるとまた人口は減る、という事である。

意:後継者のあるなしについてはある程度商工会議所にも情報があるので、経営指導の中で事業継承はどのような予定なのか聞くことはできるかもしれない。

意:気仙沼を訪れている学生から起業の相談は受けている。

意:今回、この委員会があるわけなので、承継したいニーズのある人を皆で集めるのもひとつ。

意:やりたい事が明確で起業して気仙沼に入ってきたい人もいる。例えば飲食店をやりたいが、自分の何か味があるわけではないので、どこかの秘伝の味を継がせてもらえないかというようなものもありだと思ふ。

(委員長)事業承継の需要、移住して起業したい需要の双方向からの流れを作るのもありと感じる。

【発信力、対応力の強化】

◆考え方:子育ての対象者になってから情報を発信するのでは不十分、移住しようとする人に支援策を発信するのでは不十分。支援策は対象になる前から全市民に周知されている必要がある。支援策を知らない人が多いのが現状。

◆気仙沼市民支援制度ガイドブック発行事業(事業詳細3)

よってこうしたパンフを作ることを対策とした。箇条書きの叩き台だが、今後、もう少し詰め進化させたい。

◆まちの魅力(自然文化産業エネルギー)発信 DVD の制作とネット発信事業

・2年に一回程度更新される、移住者向けの DVD の制作とネット配信。観光客相手と違う要素必要。仕事、居住、支援制度含む DVD。

◆気仙沼市市民支援総合窓口設置事業(事業詳細4)

・MINATOはUIJターンの窓口だが、結婚、出産、子育ても含め、何でも総合窓口があるべき。様々な問い合わせをメールで、電話で、来庁して、兎に角どの様な内容もどこにでも繋ぐ、応えられる、全ての窓口を菅原統括官の部下をおいて部署を作って、窓口を作るという対策。どんなことでもそこに行けば、聞けば、迷うことなく情報がもらえる窓口の設置をする。

【子育て支援強化】

◆子育て世代の子供の数によって、所得税・住民税を18歳まで思い切って減額

◆託児所の多様性の確保(事業詳細5)

ファミリーサポートなど様々な子育て支援策が当市には揃っていて素晴らしいと思うが、そこでは網羅できない夜の託児所、病気の子を預かる託児所、或いは忙しい時だけ預けられる、逆に休みの日に預けられる託児所など、折角託児所の数があるので特色ある託児所を揃えると相当助かる子育て世代がいるのではないかと。

(意見)

・託児所の0~3歳についてあずかれる場所がないので、常々弱いと感じている。

・唐桑の「どんぐり」のように老人ホームと連携して、おじいちゃん、おばあちゃんが見てくれている部分もあるようだ。そうすれば、年寄りにとってもやりがいがある。

・ちなみに、地方では進学18才にお金がかかるが、国にメニューがありUターンすれば奨学金を返さなくても良いというのが気仙沼でも導入されそうな動きはある。

・個人的には18歳まで様々なものが無料になることに疑問を感じる。

【移住者受入れ方針の明確化】

◆外国人、シングルマザー、LGBTQなど特定の対象を積極的に受け入れるか、否か、市や会議所で地域として

の方針を明確に、受け入れるなら市民総出で受け入れる。

(意見)

いいと思うが、PRはどうするのか。シングルマザー等、積極的に宣言して受け入れる方法は良いと思う。

【企業誘致の強化】

◆企業誘致、市民総ぐるみキャンペーン(事業詳細6)

企業誘致の条件は悪くないと思うので、市で決めた企業誘致の要項を皆で理解し、全市キャンペーンなどを行なって官民一体となって進めるべきでは。対象は海外企業も視野に。

【居住対策】

◆空き家バンクの進化事業「気仙沼不動産循環サイト」(事業詳細7)

(空き家募集(買上・リース)⇒リフォーム案募集(500万・1000万・2000万)⇒入居者募集(UIJ 市民 OK)⇒
⇒入居者デザイン予算家賃住人決定⇒市が物件購入(リース契約)⇒入賞者施工

(市外業者デザインの場合入札)⇒移住

と言う流れで遊休不動産を活用出来れば行政、大家、居住希望者の全てがリスクなしで winwin の関係が作れる。

◆お試し移住の進化事業(事業詳細8)

不動産&体験チケット:各施設館、船、釣り、農業、林業、サーフィン、漁業、体験チケットで数日間気仙沼の生活を実体験する。チケットは逆にそうした UIJ ターン希望者の目印となるので、チケット利用者を見かけたら市民総出でおもてなしの心で対応する。よって移住に繋がる。

(意見)

- ・お試し移住の進化で、不動産&体験チケットがあると、非常にありがたい。今でも地元の様々な人の意見を聞きたいという要望があるので、あるとありがたい制度だ。
- ・先日、ニューヨークタイムスで「世界でいってみたいところ」第2位に盛岡が選ばれた。わんこそばの観光プランでうまいPR、仕掛けをしたと思うが、上手い観光プランをつかって人を呼び込むことが大切。その上で空き家、不動産対策が必要。何か一つ柱があると良い。
- ・魚の食べ方、さばき方ひとつとっても外国人が喜ぶことは気仙沼にはあると感じる。われわれが当たり前と思っていたことが、実は魅力的なことがある。

(委員長) そういった点は、20年後のまちづくり検討部会の報告のところに入れていただきたいと思う。

- ・国際リアコライダー誘致の件も大きな額がうごくので提言に入れてはどうか。

(委員長) 国際リアコライダーの件は専門的に動いている方々もいるので、そちらにお任せしたいと思う。

◆気仙沼仕事(求人)サイトの立上げ

震災後「マチリク」として行っていた市内企業がまとまって気仙沼への採用活動を展開する事業。市域の事業として設置する。求人求業務(仕事)の掲示板の具現化。

◆気仙沼住居(不動産)サイトの立上げ

仕事サイト同様、市内不動産事業者がまとまって、外部からの住居の問い合わせ、支援制度などに応えられる様な共同事業の確立

【郷土愛教育への取組み(Uターン、出逢い)】

◆観光コース創造、子供の郷土愛育成、独身者の出会いの場創出の一石四鳥プロジェクト(事業詳細9)

18歳で転出する前の子供達に郷土の良さを教育する事を何よりも優先すべきと言う意見あり。教育委員会のこれまでの取組みを広報する必要がある一方で、観光プラン作り講座を中高生とのキャッチボールで行う(町の将来、まちづくり、観光プラン作りなどを夏休みの課題等で全員参加で実施する)、既婚移住者のグループで行う、独身者で行うことにより、観光コースの創造、移住者ネットワークづくり、出会いの場、中高生の郷土愛の4つの目的を同時に実現できる事業。

(3)最終報告案について (最終報告書案の部会案の部分以外を委員長が説明)

(意見)

意:別紙事業詳細資料について、部会の箇条書き案を鈴木委員にイメージ図を作って頂く予算はあるか?

(会頭)予算計上の許可あり。(鈴木委員(ペンシー)へ依頼する)

質:提言書の中で、これをいつまでに、誰が行うかなどは盛り込むのか。

(委員長)今回は、会議所の委員会であるので、まずは会員に提言書を示すということから始まりだと考えている。

意:20年後のまちづくり委員会は、今後も定期的に集まりたいと思っているが、他の委員会の有志もあつめて、公営住宅の民営化に向けた活動など行っていってもよいと考えている。

意:内容が多岐にわたっているのもう少し絞る時間があってもよいのではないかと。

(委員長)尖った施策ということですから出てきたものなので、今後の取り扱いは会頭にお任せしたい。

また、皆意識の高い人が今回集まっているので、今後開催されるであろう実施委員会などにも今回の委員の皆さんも参加して、今後に関わって行って欲しい。

【その他意見】

- ・2040年頃になるとデジタルとリアルを行き来するような時代になる。メタバース上で、移住定住など経済的にも盛んになると想定される。活用していくITリテラシーも大切かと思う。
- ・デジタルが進化するからこそ、気仙沼のような自然が溢れたところは素晴らしいよというアピールポイントになる。
- ・今は、リアルを魅力化してデジタルで発信しているが、その逆にデジタルで発信して、リアルの良さを体験してもらうこともできる。
- ・今はITリテラシーが高い人たちがやっているのもうそこには気仙沼が入り込めればその人たちが、気仙沼にリアル

で来てもらえる可能性が大きくなる。

- ・新潟中越地震で被害を受けた山古志村がその先進地でもある。
- ・ファンクラブがデジタル市民的になっていく。
- ・何かの機会にそういった勉強会も行いたい。

◆高橋委員長から

- ・本日振り返りシートは用意していないが、意見のある人は事務局に意見をメールいただきたいと思う。

また、本日アンケートから見えるものの分析は間に合わなかったので、次回の3月の委員会前には皆様にお送りしたいと思う。3月17日に意見がまとまらなければ、4月に1度委員会を開きたい。引き続き宜しくお願いしたい。

■閉会 18:50

◆人口減少対策委員会 今後の日程

(再調整後)・3/ 28(火)16時 商工会議所4階 会議室

第8回人口減少対策委員会 要旨議事録

日時:令和5年3月28日 場所:商工会議所4階会議室

出席者:○委員:高橋正樹委員長、廣野一誠副委員長、小野寺紀子副委員長、谷村明信、菅野潔、森雅志、村上浩之、雨宮留美子、小山憲一、原田雄介、高橋夏帆、岡本貴之、小山裕隆、齋藤和代、鈴木歩、加藤美帆、千葉可奈子、田中惇敏、岩渕崇仁、佐藤賢、小玉知子、加藤正禎 以上22名

○会議所:熊谷事務局長、小野寺部長、佐藤課長、白幡調査役、佐藤(幸)、熊谷(美)

1. 開会 16:05

○委員長挨拶… いよいよ年度末。市内の小学校卒業式と重なったため、急遽日程を変更し申し訳ない。最終回になると思うが、宜しくお願いします。ちまたでは今後、コロナが5類に引き下げとなり、色々と動きが出てくると思われるが、未だ周辺では感染者が出ているので引き続きコロナにも注意をしてほしい。

本日は、これまでの意見をまとめた提言書の最終案を確認してもらい、手直しもしていただき仕上げとしたい。提言書の宛先は会頭なので、その後は会頭の指示でということになるが、おそらく常議員会で報告し、会頭とともに市で説明を行うことになると思われる。提言書を提出して終了ではなく、ここに提言された内容は実行して意味の出るものでありますから、今後この中には市の人口減少対策会議へ招聘される方もいらっしゃるだろうし、会頭から会議所として実行の指令を受けるメンバーもいるかと思うが、その時には委員の皆さんには会頭の指示に是非素直に従って頂き、提案の実現に協力して欲しいと思う。

某部会では、既に今後も活動して行こうという話をしている部会もあるやに聞いているが、是非、様々な場面、場所で実行に移されることを願いたい。最後となる本日も、宜しくお願いしたい。

■議 題

1. 最終報告案について 資料配布された「報告書及び提言書」を一項目ずつ事務局で読み上げ、協議した。

【1】はじめに

○句読点を多くし、読みやすくする(文章が長く読みにくい、伝わりづらい)⇒委員長が修正

【2】委員会開催経過と協議内容

○掲載の通りで承認。但し、表の文字が読めないため、読める状態に差し替える。⇒委員長修正

【3】気仙沼市の人口に関する現況とここまでの人口減少対策の状況と本委員会の方針について

- 全体の文章修正、フォントを修正
- 句読点を多くし、見やすくする(文章が長く読みにくい、伝わりづらい)
- 重要な部分を見易くする方法もあるのではないか(カラーの影を入れるなど)
- 産みづらさという言葉の表現に違和感はないか? ⇒違和感なし、そのまま採用
- P3「前出の表(表①)」を「前出の<人口減少のポイントの整理>表」に修正 ⇒委員長修正

【4】アンケートから見えるもの

◆市内事業者向けアンケート

- 男性の育休率が高く見えすぎる(取得対象者における取得率など。実数を入れて修正する)
- 男性の育休は、1日取得しただけでも「育休」と見られている
- 言い回しの修正(回答者氏名は匿名で収集している に修正)
- P5 家賃相場(大卒間取りの開きは正確なのか→正確・妥当)⇒意見を参考に田中委員修正

◆市内 UIJ ターン者向けアンケート

- P7 結果をあわせて考えると～(定住歴が短い人は転出する・しやすいので抑えたいの意味)
何と何の結果を併せたのかを読みやすいように修正する。⇒意見を参考に田中委員修正

【5】これらのアンケートを踏まえながらの対策提案、積極的アイデアについて

◆行政連携分野 (高橋委員長読み上げ)

- P12「小原木」荘は「こはらぎ」が正しい ⇒委員長が修正

◆20年後のまちづくり分野 (前半:小野寺副委員長読み上げ 後半:田中さん読み上げ)

- P16「自動運転」は「自動運転車」に、「神山」は「徳島県神山町」に修正
- 日本はコンパクトシティ化していくため、“20年後はこうあるべきなのでは”を考えていく
- ふるさとワーホリとおもしろワーホリ事業の違いは、県外の人でも参加できるかできないかであるが、が分りにくいいため修正する
- 特定の業者や団体名は、記載しない。「全ての施設」という表現やサービス内容を掲載する。
- 各事業項目に事業詳細図を付ける方向で考える⇒図案外注先に追加依頼する
 - ・地域型老老集団～ 事業詳細⑫
 - ・まるごと高専～ 事業詳細⑬
 - ・生涯教育～ 事業詳細⑭

- ・全世代活躍～ 事業詳細⑮
- ・ダイバーシティ～ 事業詳細⑯
- ・ターン増大～ 事業詳細⑰
- ・日本一子育て～ 事業詳細⑱

○P18日本一子育て～事業は、(市、民間)に修正 ⇒委員長、田中委員で修正

◆経済活動分野（廣野副委員長が読み上げ）

- P14「気仙沼へのUIJターンを面で増やす」へ修正
- P11 高校卒業後の項目は、行政部会事業と重複のため行政部会の方を削除
- P12 市民交流サイトの項目は、行政部会事業と重複のため行政部会の方を削除
- P15 優良漁船表彰式の項目の「みなとまつりで開催」を「みなとまつりの機会に」等に修正
⇒意見を参考に、委員長が修正

【6】まとめ

- まとめの部分だけでも、三陸新報に掲載しても良いのでは？
- 文章だけで前半の部分を初めて読む人たちに理解させるのは難しいため、人口減少のシミュレーション結果を表す、グラフ等の挿し絵を追加した方がいいのでは ⇒田中委員追加修正

【今後について】

- 今後は会頭に提出し、会頭の指示でその後の動きが出ると考えている。
- 事業詳細図、委員会議事録、2つのアンケート結果、各部会からの参考資料の順で添付する
- 表紙、目次、裏表紙、製本はペンシーさんが請け負う
- 各会員企業に郵送、プレス発表、会議所HPに掲載するなどして周知になる予想。
- 市で立ち上がる人口減少委員会にも提言書を説明する機会を設けるべき
- 今回で委員会は最終とするが、会頭の希望があれば、再度、集まっていただく可能性もあるため、その際にご協力をお願いしたい
- その他、気づいた点等があれば、2～3日中に事務局へ連絡をお願いしたい

18:15 閉会

最後に高橋委員長より 8月にスタートし、半年以上、この時期までお忙しい中、ありがとうございました。皆様のご尽力があつて様々な視点からの意見が集約された提言書にすることが出来たと思います。それぞれ委員会や部会で出した意見が、あちこちに盛り込まれていたと思います。本当に感謝しています。しかし冒頭でお話した様に提言書をまとめるのが目的ではなく、1つでも実現して行くことが最終的な目的です。会議所や市で色々な取り組みがされて行くと思いますが、指名された方は勿論、指名されなくても自分の企業や組織で取り組むことは出来るはず。また既に取り組みを始めた組織もありますし、ここに当事者もいらっしゃいますが、

そうした取り組みにドンドン参加する、或いは取り組んでいる方は門戸を広げて受入れ拡大して行く、そしてこの地域を皆で良くしていく。どうぞ1つでも2つでも取り組んで頂き、皆で気仙沼を盛り上げて行きましょう。本当にありがとうございました。

委員皆さんからの拍手で、委員会を閉会。